

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年 3月 11日

事業所名 学びの郷

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			広い活動スペースを確保している。	
	2 職員の配置数は適切である	○			手厚く職員を配置をしている。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			施設内はバリアフリーに配慮されている。	入口外に2段の階段があるので、出入りの安全を職員が見守るように対応している。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			ミーティングで全職員に情報を共有し、改善のための検討を行っている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			評価表を配布してアンケート調査を実施している。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			ホームページ上で公開	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			必要に応じて専門家や他事業所へ相談を行っている。	
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			研修を積極的に実施し、外部の研修会にも参加して職員の資質向上に努めている。		
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			アセスメントを適切に実施し、子どもと保護者、職員からの情報を詳しく分析した上でデイサービス計画を作成している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			アセスメントツールを使用している。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			全職員が立案に参加している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			職員のミーティングで案を出し合って検討し、新しい活動プログラムも積極的に試している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			長期休暇には充実した支援を目指してお出かけや運動等のプログラムを企画し、詳細な企画書に基づいた細やかな支援を行っている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			集団で活動する時間と個人活動の時間を含めて計画している。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			支援開始前に全員でミーティングを行い、活動や役割分担について確認している。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			支援終了後にも話し合いを行い、気付いた点等を共有して翌日のミーティングに引き継いでいる。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			業務日誌を活用して毎日記録をとっている。	

関係機関や保護者との連携	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			支援計画に基づいて定期的にモニタリングを行っている。		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			ガイドラインに従って活動を複数組み合わせている。		
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			職員主体から子どもの状況をヒアリングし、ふさわしい職員が参画するようにしている。		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			必要に応じて学校と連絡を取っている。		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○			現在医療的なケアを必要とする生徒はいないが、利用開始時にかかりつけの医療機関を確認して連絡できるよう体制を整えている。		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			相談支援事業所を通じて必要に応じて情報を共有している。		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			現時点で該当する生徒なし。		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			各専門機関の実施する研修会に積極的に参加している。		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			児童館で活動する日を設けて交流している。		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			協議会の実施するイベントに参加している。		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			モニタリングや面談を実施するとともに、送迎の際にも各職員が保護者と情報を交換し、全体で共有できるようにしている。		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			モニタリングの際に状況を話し合い、必要に応じて支援についての情報を提供している。		
	保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			利用開始時と契約変更時に説明を行っている。	
		31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			随時相談を受け付けている。必要に応じて送迎時や電話、訪問で話し合いや相談を行っている。	
		32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○	今年度は保護者会等の交流の機会を開催していない。	保護者同士の連携を支援する方法を検討する。
		33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			毎日のミーティングで全職員に情報を共有し、すみやかに対応を協議している。	
		34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			個別のお知らせを発行している。夏休み等の長期休暇前には活動予定表を作成している。	

	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			送迎時等に意思の疎通を図り、相談しやすい雰囲気づくりに努めている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		地域住民を招待する行事は実施していないが、地域のイベントに参加する機会を作っている。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			職員向けにマニュアルを策定している。保護者には利用開始時に説明を行っている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			避難訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			外部の研修会、職員研修で対応している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		現時点で身体拘束を必要とする生徒がない。	必要に応じて協議を実施する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			保護者からの情報をもとに連携して対応している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			ヒヤリハット情報を作成して事業所内で共有している。	